

スマイルたかくらラリー

各部会の評価者になって



評価部会

優しさ思いやり
あふれるグループ
(キラキラさん)
の発表



今後の課題

地域の方との交流をさらに深める

取組の精選と整理をする

長いスパンでの目標や展望をもつ

平成22年度 京都市立高倉小学校 学校評価表 (年間評価)

| 分野 | 評価項目 | 評価指標 | 分析(成果と課題) | 改善策 |
|-----------|--------------------------|-----------------------------|--|--|
| 1 確かな学力 | 進んで学び、生き生きと学習する子の育成 | 児童・教職員アンケート調査 | 児童の主体的な学びと自分の考えを表現する力については、取組の成果が少しずつ表れてきている。「自ら学ぶ姿」は、今後も大切に目指していきたい姿であるため、授業改善を行いながら継続して取組を進めていく。「読解力の育成」は、読解のプロセス(課題設定→情報活用→記述→交流)が非常に大切な流れであるため、教科を貫く研究の柱として取組を継続したい。 児童の意欲を高めて授業に臨む姿勢づくりにおいては、教師の授業改善が必然のものとなっている。児童主体の授業構築を行い、一定の成果が見られた。グループ学習を効果的に取り入れた成果であり、継続して取組を進めていきたい。 | 児童の主体的な学びを推進していくために、グループ学習の進め方を共通理解し、授業構築できるようにする。また、研究3部会がより機能しやすくするための方策を練る。3部会で練られた授業の展開や学習の手法を学年会の話題にすることを通して、各教科の教材研究を充実したものにしていく。 教職員が集う場所で常に児童の指導についての話題が出されるような雰囲気づくりを行い、全教職員が全校児童のことを把握し、教材研究が当該学年だけにとどまらず、幅広く意見交流ができるような場づくりを行う。また、若年教員研修を充実させ、授業力向上につなげていけるようにする。 |
| | 自分の考えを明確にもち、適切に表現できる子の育成 | 研究3部会による授業構築と研究授業の実施 | | |
| | 児童が進んで学ぶ、楽しく分かりやすい授業の創造 | 児童・教職員アンケート調査 | | |
| | ICT機器を活用した授業の創造 | 教職員アンケート調査 | | |
| 2 豊かな心 | あいさつの育成 | 児童・保護者・教職員アンケートによる意識分析 | あいさつのできる子の育成については、様々な手段を用いて自発的なあいさつができるようにと取組を重ねているが、なかなか成果として表れない現実がある。意識調査の結果からも、あいさつの意義を理解しきれていない児童がいると感じられる。そのため、児童主体のあいさつ運動を展開するなど様々な方法で意識化を図っていかなければならない。 相手を思いやり優しく豊かな心をもった児童を育成することに対する思いは、児童・保護者ともに重要度が高いという結果が出たが、行動に結びつかない現実が見えてきた。スマイル21プラン委員会とも連動させて、豊かな心を育んでいきたい。 | 学校・家庭・地域が協働して子どもたちに関わる中で、様々な場において、あいさつの重要性についてふれるような試みを行う。児童会が主体となって、あいさつ推奨運動を企画するなど、これまでの取組を振り返り、改善すべき点は改善して、より子どもたちの意欲を喚起できるような取組を行うようにする。 保護者の願いをもとに企画立案したスマイル21プラン委員会の取組については、よかった点を継続するとともに、さらに子どもたちの豊かな心を育むための方策を発信し、取組を強化していけるようにする。道徳教育推進教員を中心として、さらに充実した道徳教育が進められるようにする。 |
| | 優しく思いやりのある子の育成 | 児童・保護者・教職員アンケートによる意識調査 | | |
| | 豊かな心の育成 | 道徳教育の充実 | | |
| | | | | |
| 3 健やかな体 | 基本的な生活習慣の確立 | 生活点検アンケート「早寝・早起き・朝ごはん」調査と分析 | 朝食の摂取率については、98%以上の児童が摂取して登校できているという回答が得られている。ただ、就寝時間については、学年があがることに比例して遅くなっている現実が垣間見られた。保護者アンケートの結果からも、「早寝・早起き・朝ごはん」の重要性は理解できていても、実現度が低い結果が明確に表れた。 朝のマラソンや体力向上に向けての様々な取組については、児童の参加数が増え、充実した取組となっている。 | 改善に向けての方策の発信は学校側からだけでなく、保護者の目線から改善点を発信するなどPTAの健康委員会を巻き込んだ取組を展開する。学校保健委員会への保護者出席は、子どもたちの現状を学校医とともに共通理解してもらう場として活用する。 栄養教諭からの栄養指導は継続して行い、さらに充実したものにしていくために内容を精選し、より高いものを目指すようにする。 体力向上に向けた取組については、1年間という長いスパンで継続できる取組を子どもたちに発信し、内容をさらに充実させていく。 |
| | 食育の推進 | 栄養教諭による給食(栄養)指導の実施 | | |
| | 体力の向上 | マラソン・なわとび等の取組の充実 部活動の充実 | | |
| 4 学校独自の取組 | 小中一貫教育の取組の推進 | OGTプロジェクトの実施と部会の活動推進 | 小中一貫教育における多岐にわたる取組も軌道に乗り、3校で検討し作成した各教科・領域の9年間のカリキュラムにそって実践を重ねることができている。 スマイル21プラン委員会の活動は、保護者の意見を年度当初に聞き、児童につけたい力を明確にして、テーマを設定し、企画実践することができた。 情報発信については、即時発信を心がけ積極的に更新をしたり、おたよりの配布を心がけているが、保護者からのニーズが高く、改善できることを明確にしていきたい。 | 3校教職員の意識を統一し、読解力の向上に向けた取組をより充実したものにしていくために、まず校内の意志統一を図って研究を進めていく作成したカリキュラムを用いて実践を重ねることはもちろん、さらなる改善点を共通理解して進めていくようにする。情報発信については、今年度以上に積極的に行うようにする。 スマイル21プラン委員会の活動については、原点に立ち戻り、高倉の子どもたちをどのように育てていくのか、またどんな学校をめざすのかを今一度見つめ直し、取組の方向性を定めて進めていくようにする。 |
| | スマイル21プラン委員会(学校運営協議会)の推進 | スマイル推進委員・保護者・教職員アンケート調査 | | |
| | 情報発信の充実 | 学校だより・スマイルだよりの発行と学校HPの更新状況 | | |
| | | | | |

| 学校関係者評価 | |
|---|---|
| 評価結果 | 改善に向けた支援策 |
| <p>教職員が一丸となって高倉教育推進のために尽力している様子がうかがえる。子どもたちのさらなる学びの充実を目指して、団結して取組を進めて欲しい。子どもたちの生活習慣の確立については、さらに保護者への働きかけを強化することが望まれる。栄養教諭・養護教諭を中心とした食育については、引き続き継続した取組を望む。 スマイル21プラン委員会への関わりは努力を惜しまないが、学校側からの遠慮のない要請が望まれる。また、PTAの保護者のさらなる活躍に期待をしたい。</p> | <p>学校は、地域に遠慮することなく、協力して欲しいことを伝えていくようにする。地域のできることであれば、惜しまず協力する。 学校が主体となってどんな学校づくりをしていくのかを明確にして、学校・保護者・地域の意思統一をしっかりと図り、取組を進めていくようにする。</p> |

学校評価表

平成〇〇年度 京都市立〇〇学校 学校評価表 (中間点検 ・ 年間評価)

| 分野 | 評価項目 | 評価指標 | 分析(成果と課題) | 改善策 |
|--------------|--------------------|-----------------------------|---|---|
| 1 確かな学力 | コミュニケーション能力の育成 | 児童による学習アンケート調査 | コミュニケーション能力の育成については、アンケートで、「相手を見て話せる」という設問に肯定的に回答した児童が8割を超えており、一定の成果が見られる。 総合的な学習の時間では、のべ20人の地域の方に授業を行っていただき、地域に根ざした授業が展開できた。 わかる授業の創造については、教員のアンケートと児童のアンケートで意識の差があることから、更なる授業改善が必要である。 | コミュニケーション能力の更なる向上に向け、授業の中で結論と理由を述べる取組をさらに充実させる。 研究授業を増やし、わかる授業の創造に向けて、教員が相互に研修できる機会を充実させる。 地域の方による授業について、その場の指導だけに終わらず、継続的に児童に関わっていただけるような取組を展開する。 |
| | 自分の考えを出し合える算数科授業作り | 習熟度別授業を年間10時間以上実施 | | |
| | 総合的な学習の時間の充実 | 地域の教育資源の活用状況 | | |
| | わかる授業の創造 | 教職員アンケートと児童アンケートによる意識分析 | | |
| 2 豊かな心 | 豊かな体験活動の実践 | 社会体験活動の取組の充実と児童アンケートによる意識調査 | 体験活動を通じて「新たな発見があった」と感じている児童が9割を超えており、取組の成果が見られる。 言葉づかいについては、保護者アンケートにおいて重要度が高く実現度が低いという結果が出ているのに対し、教職員は重要度は高く実現度も高いという意識の差異が明確になった。 道徳教育については、学年会での共通理解のもと、各教科との関連を図りながら、取り組めている。 | 体験活動で感じたことを、自らの言葉で表現する場を更に充実させていく。 言葉づかいについては、児童会活動を中心として、「マナーアップ週間」を強化し、保護者が取組の成果を実感できるような工夫を図るとともに、学校だより等で家庭への働きかけを積極的に行う。 |
| | 望ましい言葉づかいの徹底 | 教職員・保護者・児童アンケートによる意識分析 | | |
| | 豊かな心の育成 | 道徳教育の充実 | | |
| | | | | |
| 3 健やかな体 | 基本的な生活習慣の確立 | 朝食の摂取率 | 朝食の摂取率については、90%以上の児童が摂取していると回答しており、家庭への発信の効果が現れてきたと考えられる。一方で、望ましい生活習慣の確立というアンケート項目では、保護者の重要度の認識において、学力向上に関連する項目よりも相対的に低く、より一層の意識の向上を図る必要がある。 朝マラソンについては、参加する児童が増えてきたところである。部活動については、地域指導者の協力のもと、活性化してきている。 | 朝食の摂取と睡眠時間の確保の重要性について、保護者への発信をさらに充実させていく。保健室だよりだけでなく、学級通信等でも積極的にトピックとして取り上げていく。 朝マラソンについては、チャレンジカードや表彰制度の導入で、より積極的な児童の参加に取り組んでいく。 部活動では、教員と地域指導者との連携を密にし、より充実した指導内容としていく。 |
| | 体力の向上 | 朝マラソンの充実 | | |
| | | 部活動の充実 | | |
| | | | | |
| 4 学校独自の取組 | 小中一貫教育の推進 | 小中合同研修会の実施 | 小中合同研修会は、今年度から前期・後期各1回ずつ実施することとし、教員の意識改革が進んだ。 食育については、学校運営協議会とも連携し、学校での学びと生活での体験の一致に向けて取組を始めたところである。 HPIについては、積極的に更新しているが、閲覧状況が伸び悩んでいる状況がある。 | 小中合同研修会は、教科ごとの班別研修を計画していく。 食育については、学校運営協議会との連携を一層強化し、地域ぐるみで食についての意識を高め、成果の発信の充実を図る。 HPIは、保護者や地域の方に常に最新の情報を提供できるよう、内容の充実を図るとともに、HPを見てもらえるような情報発信を行う。 |
| | 食育の推進 | 栄養教諭による授業の実施 | | |
| | 情報発信の充実 | 学校HPの更新状況 | | |
| | | | | |

26

学校評価表サンプル記入例

| 学校関係者評価 | |
|---|---|
| 評価結果 | 改善に向けた支援策 |
| <p>若手の教員が多いなか、算数科を中心に熱心に研修に取り組んでいる様子が伺える。朝食の摂取率については、90%というアンケート結果に満足せず、100%を目指して引き続き取り組んでほしい。朝食を摂取していない児童の日常の様子に気をかけるとともに、保護者へのより一層の働きかけが望まれる。</p> <p>食育については、学校運営協議会として今年度から協力してきたが、学校とともに取組を総括し、次年度は更なる充実に向けて取り組んでいきたい。ホームページについては、地域の人はよく閲覧しており、情報源として活用しているという声を多く聞く。閲覧状況が伸び悩んでいるのは、保護者の閲覧が少ないのではないのか。</p> | <p>授業改善に向けて、保護者や地域による授業補助が必要であれば、学校運営協議会としても人材確保に協力する。</p> <p>食育については、企画推進委員会の活動をさらに充実させていき、地域全体の食に対する関心を高めていく。</p> |

学校評価のねらい

学校教育目標の具現化を図る取組を保護者・地域・学校の三者が共有の目標を設定し、求める子ども像に向けた取組を推進する。各取組が子どもたちの力になっているかを検証するために、保護者・地域の方、また児童のアンケートをとり、効果的な活動となっているかを確認、改善を図る。

| | | 評価の検討と実施 | 学校運営協議会 学校評議員の会 | 公表の時期と方法 | |
|--------|--------|--|---|---|------------------------------------|
| 中 間 | 4 | | スマイル外部評価の結果・分析・改善策の提示 | 学校だより（教育方針の発信）評価年間計画をホームページに公表 | |
| | 5 | 評価システムによる自己評価表 （面接実施により、修正） | | | |
| | 6 | 日曜参観保護者アンケート （学習内容・児童の様子など） 児童による評価 （学級経営・友人関係など） | | | |
| | 7 | 学校運営自己評価（教職員） 評価の分析・改善点の検討 | | 学校だよりで改善点、具体的な取組の公表 学校ホームページで公表 | |
| | 8 | | | | |
| | 9 | 教育活動保護者アンケート （運動会を含む） 評価システムによる中間評価 （面接実施により修正） | アンケート集計・分析・検討 | 学校だよりで改善点・具体的な取組の公表 学校ホームページで公表 | |
| | 10 | | | | |
| | 11 | | 「スマイルたかくら」 アンケート 集計・分析・検討 | | |
| | 12 | | | | |
| | 年 間 | 1 | 研究発表会保護者アンケート （授業内容・ねらいの達成） 児童による評価 （学習理解・学習満足度など） 研究発表会評価分析・改善点の検討 | スマイル委員による部内評価 （学校評価・学校運営協議会の取組） | |
| | | 2 | 学校運営自己評価（教職員） 評価システムによる最終評価 （自己評価表提出） 児童による評価（学習満足度） | 委員自身の評価 学校関係者による評価 （自己評価・保護者・地域の評価分析・改善点） | |
| | | 3 | 次年度の改善点の検討 取組の具体化 | 次年度の改善点の検討 取組の具体化 | 学校だよりで改善点・具体的な取組の公表 学校ホームページで公表 |

京都市立高倉小学校 基本構想 (高倉プラン)

【学校教育目標】 「 夢・希望・感動をつくる学び舎 」
豊かに学び 表現し 未来にはばたく高倉の子
～「知・徳・体」にバランスのとれた子ども ～

《めざす子ども像》

- 進んで学ぶ子
- 思いやりのあるやさしい子
- 健やかでたくましい子
- あいさつのできる子

〔高倉教育の重点〕 We Love To Teach.

◆ 学校力 (学びがいのある学校・楽しい学校・明るく元気な学校)

～ 全体的に子どもの実態を把握するとともに、子ども一人一人の個を見つめ、子どもが主役、子どもがもっともっと生き生きと活動する学校生活。 教職員や保護者・地域の方々はその場を設定し、子どもたちの活動の支援をしていく。手を出しすぎない。～

○元気、やる気、思いやりのある教職員 (組織力…チーム高倉)

○教育環境の工夫と改善 (学校が大好きになれる環境整備)

○保護者や地域と結ばれた学校

○学校評価 (教職員・保護者・子ども・スマイル委員)、生活点検 (健康教育部) などの調査を生かす。(多種の実施だけでなく、結果を次に生かす。)

◆ 自己教育力 (授業力)

○「指導しきる」

基礎・基本の学習の徹底 … 読み・書き・計算 (振り返り、反復)

どの児童にも学力を確実に定着させる

予習・復習の指導と家庭での学習習慣 (放課後まなび教室の活用)

○「確かな学力を培う読解力・表現力の育成」

個に応じた学習指導と評価システム (高倉モデルの確立)

○読書活動とICT教育の充実

◆ 人間力

○ 基本的な生活習慣の定着 (力をつけるための土台)「早寝・早起き・朝ごはん」
・体力の向上・バランスのとれた食事 (食育)・十分な睡眠 《家庭との連携》
当たり前前を当たり前にする [あいさつ、後始末 (遊具、1輪車)]

○ 人にやさしく、ものにやさしく

(人権尊重：規律ある学級集団、環境教育：リサイクル体操服、牛乳パック)

○ 個性が輝く、豊かな体験活動 (行事で育てる。)

全学年 地域 (校区等) フィールド学習 (高倉文化、祇園祭 等)

4年・5年・6年「宿泊学習・自然体験活動」

《 高倉教育の根幹をなす特色 》

未来に輝く 小中一貫教育の創造

「夢やあこがれをもち、自ら未来を切り拓き、よりよい社会を創造していく児童・生徒」

○小中一貫義務教育9年間を見据えて

- ・23年度カリキュラム（新学習指導要領 完全実施）
- ・5・4制の確立に向けて
 - 6・7年（学びの充実期）での研究体制のよりよい姿（読解科の単元開発）
- ・義務教育9年間を貫く「読解力」育成のための取組
- ・OGT小中交流（6～9年）の進展…児童・生徒会、行事・集会活動、部活動等
- ・6年生を大切にしていくとともに、小中一貫していくものを充実していく。

子どものための授業研究の進展と深化

（分かりやすい授業・しっかりと考える授業）

○読解科・算数科を中心に、学力向上を目指し、授業研究の深まり

…『高倉スタンダード』を創り上げる（他校への発信）

- ・司会力をつける
- ・発言力をつける
- ・記述力をつける

○京都大学との連携による専門性の探究

「教師が育つ、子どもが育つ、院生が育つ」

京都大学大学院教育学研究科教育方法学講座 院生との連携による共同授業研究

結果責任（結果を見とどける）

子どもの思考と表現を評価していく…パフォーマンス評価

学校運営協議会「スマイル21プラン委員会」の推進

○保護者・地域の方の学校教育への参画システムを生かし、地域・家庭・学校が協働して、未来に向かって、よりよい社会を創造していく子どもたちを育成する。

もっと学校から、「こんなことをしたい。」という提案を出して、地域や保護者の協力を得る。

○めぐまれたひと・まち、すばらしい地域とのつながりを

（多分野への広がり）

○地域の方・保護者の方の目を、足を学校へ …創立20周年に向けて。